

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292000056		
法人名	(株)白 菊		
事業所名	グループホーム ふれあいの里		
所在地	青森県東津軽郡今別町大字今別字中沢 149-1		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりの今までの暮らしを大切に、安全な環境の中で毎日楽しく暮らしていけるよう、職員は基本理念を毎日復唱し、常に入居者の方が参加できる生活を工夫している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは平成29年から町と協力し、オレンジカフェという認知症のカフェを毎月定例で開催しており、地域住民が参加している。また、災害時には地域の避難所の役割も担っており、発電機や食料等も十分に備蓄している。 ホームでは認知症の利用者が毎日自分らしく生活できるような理念を掲げ、手作りの食事の提供や新幹線駅への外出、地域行事への参加等を通じて、安定したサービス提供に努めている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム単独の基本理念に基づき、日常生活に活かした対応を行い、ケアプランから実践に繋げている。また、理念は毎日唱和している。	管理者や職員は地域密着型サービスの意義を理解し、ホーム独自の理念を掲げている。職員は理念を毎日唱和して、共有し、サービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のイベントに参加したり、地域の医療機関への受診、ホームのイベントへの招待等で地域との交流を図り、理解を深めている。	平成29年からオレンジカフェという認知症カフェを開催して、地域住民に周知し、取り組みが徐々に広まってきている。また、町を訪れている国際協力員の受け入れも積極的に行う等、地域と繋がりがながら、ホームが地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への散歩や道の駅での外食等、地域に出向くことで理解や協力を得ている。また、ホーム行事にはボランティア等の協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況や外出行事、ホーム内行事の様子、社内研修の内容を伝え、理解・協力を求め、サービスの向上に活かしている。また、委員へ事前に文書で通知し、出欠の確認を行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では利用者の生活状況やホームの取り組み、自己評価及び外部評価結果等を報告し、話し合い、出された意見を日常のサービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議で「目標達成計画」や「サービス評価の実施と活用状況」が説明されていないため、サービスの質の確保と向上のためにも、説明していただきたい。また、会議録も作成するように努めていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になっていただき、会議での報告に対して、助言をしていただいたり、情報提供の協力等、連絡を密に取っている。	運営推進会議やオレンジカフェに町担当課職員が参加しているため、連絡を取り、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠を行わず、常に見守り、声がけをしているほか、社内研修においても身体拘束ゼロの実施を常に教育している。	玄関や居室の施錠は行わず、身体拘束を行わない姿勢で支援している。また、管理者や職員は内部研修で身体拘束の弊害について学習し、理解に努めているほか、身体拘束に関するマニュアルや同意書、記録の様式を整備している。	平成30年度介護報酬改定により、身体拘束を適正化するための委員会の設置やマニュアルの整備が義務化されていますので、運営推進会議や職員会議を活用しながら職員への周知を徹底し、早急に体制を整えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待の防止の勉強会を設け、言葉づかい一つでも虐待になること等、小さな虐待も行わないように注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や全職員で勉強会を行うと共に、研修会への参加を促し、家族への情報提供も欠かさずに行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をかけて契約の説明を行い、重点事項や不安・疑問点等については、ゆっくりと時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を十分に傾聴し、ホームの運営に関する事は細かく説明している。また、家族会や面会時に、気軽に話しやすい雰囲気づくりに努めている。	運営推進会議に家族会の代表が参加しているほか、面会時に家族等の意見や要望を聞き、ホームの運営に反映させるようにしている。また、苦情受付担当者や苦情解決責任者を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し、職員間の意見や提案を聞き、反映するように努めている。	毎月の利用者カンファレンスの時に、ホームの運営等について職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、朝礼や申し送りのほか、空いた時間があればいつでも意見を出し合い、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、職員の日々の努力や勤務状況を把握し、常に改善に努めている。また、健康診断にて職員の健康管理を行っており、やりがいの持てる職場環境へ配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、毎月社内研修を行っており、職員が研修を受ける機会を確保できるように時間を調整している。また、仕事の中での疑問や質問に常に助言し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会(3ヶ月に1回)や地域ケア会議(月1回)へ参加し、意見交換することで、サービス向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日声がけをし、会話して、入居者の話を聞いている。また、不安や要望がある時は速やかな対応により、入居者が安心して生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の不安や要望に速やかに対応できる体制であることを説明している。また、電話や手紙で状況を報告したり、面会時に相談できる環境を整え、家族との信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を十分に行い、介護計画書を作成し、状況に変化が見られた場合は速やかに変更して、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事は継続していただき、できない事を支援し、過度な介助や介護を控え、理念を介護計画に盛り込んで実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での入居者の生活状況や通院状況等を報告し、入居者の不満を家族と相談しながら解決していく等、理解や協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人や知人が気軽に面会できる環境づくり、ホームのイベントへの参加も促している。	入居前の生活歴を把握し、利用者が大事にしていた付き合いや馴染みの場所との関係を継続できるよう、電話や外出等の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々なレクリエーションを工夫し、参加を通して、協力し合い、共に楽しく、明るく笑顔で過ごせる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせて支援や相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日会話することで入居者の希望や意向を把握し、表情の変化にも注意しながら、観察し、支援に向けている。	担当制ではあるが、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を全職員が把握するように努めている。また、意思疎通が困難な場合は全職員で観察し、利用者本位となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族、関係者から入居者の以前の生活状況や状態を聞き取り、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の週間予定のチェックにて、入居者一人ひとりの1日の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で毎月カンファレンスを行い、入居者一人ひとりの生活の状況に沿ったケアの見直しや対応方法を検討し、介護計画に取り入れている。また、家族への確認や報告を必ず行うこととしている。	毎月カンファレンスを開催し、モニタリングを6ヶ月に1回実施しており、利用者の暮らしがより良くなるために、課題や支援方法について、利用者や家族、関係機関と話し合い、利用者の状態に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日報へ具体的に記録(内服等は内服時間を記入する等)し、入居者毎の担当が情報を共有するため、発信に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診に頼らず、入居者個々の主治医への受診を継続して行えるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ民生委員や地域住民に出席してもらっている。また、地域ケア会議へ参加し、外部のケアマネージャーや地域包括支援センター職員との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々の主治医へ外来の受診支援ができています。	入居前のかかりつけ医を継続して受診することができ、受診は職員が対応しており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。また、受診結果については、面会時や月1回の手紙で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告を欠かさず(不在時にはケアマネージャー)、入居者の健康管理に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中に情報を交換し、家族の不安にも答えられるよう、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と事前に十分な話し合いを行っており、重篤化した際の在り方の指針を定め、家族の理解を求めている。	看取りは実施していないため、入居時に重度化した場合や終末期の対応について、利用者や家族等と話し合い、ホームで対応できる事を説明して、方針を共有し、家族が不安になることがないように支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個別の発作時に対応できるように指導している。また、一定の訓練は勉強会に取り入れ、年1回の救急救命講習には、多くの職員が参加できるように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対する定期的な訓練(年2回)を実施し、運営推進会議を通して地域協力員との体制も、常に整えている。また、防災用品も別棟に用意している。	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定 of 訓練も職員と利用者が一緒に行っている。消火器等の設備点検も年2回、業者が入っており、火災や地震、水害等の災害時に避難できる方法について、全職員が身につけるように努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会で常に確認や改善を行っている。	同じ姓の方が多いため、利用者の了解を得て、下の名前に「さん」を付けて呼んでいる。また、職員の言葉づかいや声がけに配慮していけるよう、管理者や職員はお互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個別に声がけをすることで、希望や訴えを出しやすい環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせたケアができるような介護計画を作成し、毎日のコミュニケーションの中から、希望を聞く体制で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに応じて、衣服を選んでもらい、気候に合わない時は声がけを行いながら、交換を促している。また、服飾品も好みの物を付けてもらい、危険がないように確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや希望に合わせて提供している。また、楽しく食事できるように食事中はテレビを消し、音楽をかけ、会話ができる環境を整えている。	職員が利用者の嗜好を把握し、献立を作成しており、旬の食材を取り入れたり、苦手な物の場合は代替え品を用意する等、利用者がきちんと食事摂取量を確保できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立で、美味しく食事ができる量での提供を行っている。また、水分は居室でも取りやすいよう、ペットボトルを各自に持たせ、水分摂取を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりへの声かけや見守り、一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導や見守り、一部介助を行っている。また、トイレでの排泄やポータブル使用の継続を介護計画に取り入れている。	利用者個々の排泄記録を作成しており、力量や排泄のパターン、習慣を活かして、事前誘導を行っている。利用者や家族の意向を聞きながら、随時、見直しを行っており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活に野菜や果物を取り入れたり、起床時の水分補給の促し、状態に応じて下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	体調に不安なく、定期的に入浴を楽しめる支援を行っている。また、入居者が安全に入浴できるよう、常に職員が2人体制で支援している。	入浴は基本的に週2回実施し、個別に入浴している。また、利用者の安全を確保するために職員を配置し、入浴を楽しめるように習慣等を把握しながら、支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけや見守りにて、入居者の安眠や休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時間を入居者一人ひとり記入し、職員の声出し確認にて誤薬の防止を行っているほか、常に状態の確認を行い、副作用に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに塗り絵等の手作業や体操等の軽運動を取り入れ、工夫を凝らしている。また、自由時間には編み物や手芸等、入居者個々の趣味を楽しんでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は声がけをして、前庭の散歩を促している。また、外出行事は月1回のペースで企画し、遠方や近場等、入居者が楽しみを持てる機会を計画して行っている。	月1回は外出支援を実施し、できるだけ外に出かけられるように取り組んでいる。利用者の希望により、嶽きみの最盛期には毎年、ドライブをして食べに行くことが楽しみとなっている。また、家族の協力を得て、自宅や寺、墓等へ外出する利用者もおり、できるだけ出かけるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者と家族の意向を伺った上で、少額を所持し、外出時に自由に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が来た時は、必ず入居者と話ができる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂の使用時間等を設けていないため、好きな時に居間や居室で過ごすことができる環境づくりを行っている。	広いホーム内は清潔にしており、ソファ等を置いて、利用者が好きな場所でくつろげるように配慮している。壁には手作り作品を飾ったり、木工品を館内に置いているほか、窓からは周辺の山々を見渡すことができ、自然を味わい、季節の変化を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置し、雑談したり、居室以外で一休みできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた愛用の物を身の回りに置くことで、入居者が安心した生活を送れるように支援している。	利用者が使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただいで配置し、利用者が居心地良く過ごせるように職員と一緒に工夫し、居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境整備を心がけ、入居者が自立した生活を送っていけるように日々努めている。		